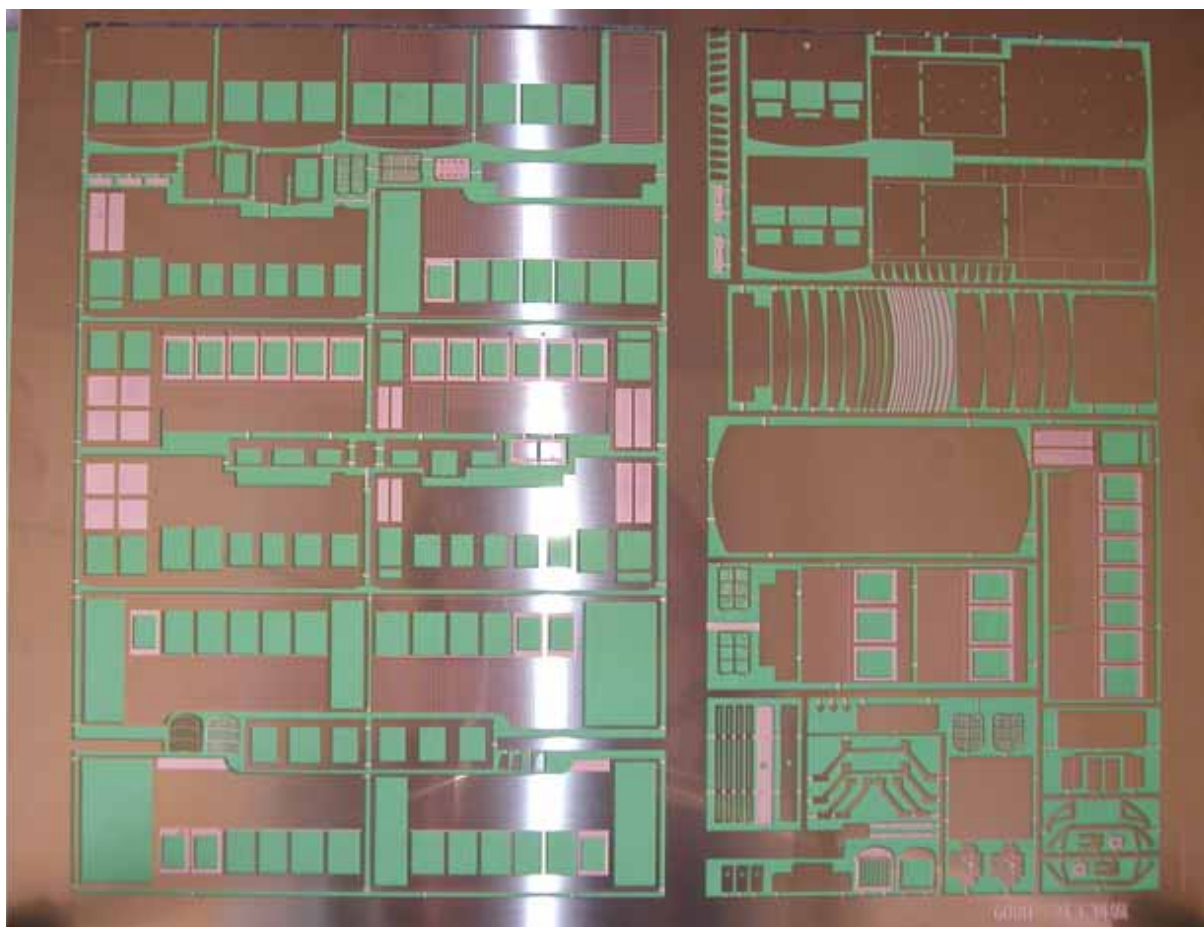


# 頸城単端タイプ組み立て説明



キットには以下のものが含まれます

- エッチング板
- ロスト製ボンネット(オレカン製本体のみ)
- ヘッドライト(ロスト)1
- 網棚受け(ホワイトメタル)12個

このエッチング板は市販を考えていなかったため、本来修正すべき点があるままになっている箇所があります。また、説明書も不十分とは思いますがご了承ください。

別購入部品は**青字の強調文字**で説明書中に示しました。帯板等のサイズ単位は注記なき場合mmです。ただしネジ等細かいものや工具類は含まれていません。

また、この説明書を書いている時点では私も製作を終わっていないため、ディテールの取り付けについては、写真がないものがあります。

さいわい近年実物を実見した諸先輩方が素晴らしい写真集を続々刊行していますので、それらを参考に自由にアレンジして頂き、この説明書は組み立ての一例としてご覧いただければと思います。特に梅村正明氏のRMライブラリー77頸城鉄道(ネコバブリッシング)では、ジ1の詳細写真が多数掲載されています。このエッチング板は、この本なくして製作できませんでした。この著者の方をはじめ、古くから貴重な写真を撮影され、それらを写真集やHPで公開してくださった諸先輩に謝意を表します。

# 制作できるタイプ

以下の3タイプを制作できます。

頸城鉄道ジ1, 2をプロトタイプとしていますが、他形式の部品を流用しているため、ボンネット等実車とは異なる部分があります。原形は古い写真等を参考に自由に組み立ててください。

各タイプとも反対側の客ドアは一番上の図と同じ幅ですが、ジ1は鋼板張り、他は木張りです。

## ジ1タイプ

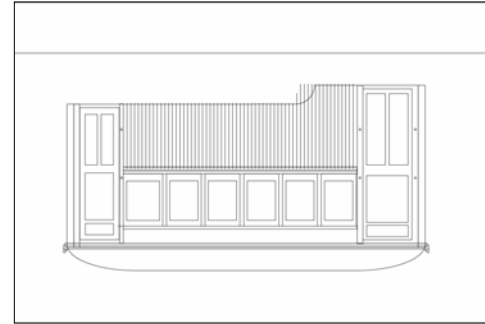
- 妻板・側面ともに鋼板張り。
- ボンネットは大型(九十九里鉄道キハ104用の流用ですから、実車とは大きさが異なります)。
- 客ドアは左側のみ広い。

## ジ2タイプ

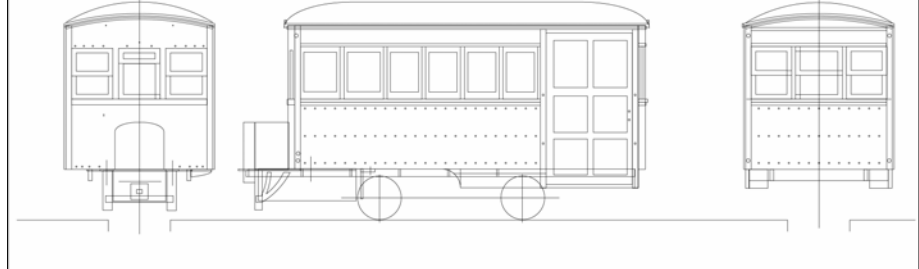
- 妻板のみ鋼板・側面は木造。
- ボンネットは小型。
- 客ドアは左側のみ広い。

## 原形

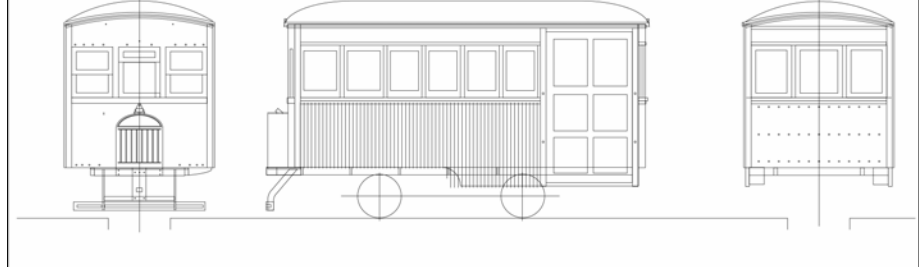
- 妻板・側面ともに木造。
- ボンネットは小型。
- 客ドアは両側とも狭い。



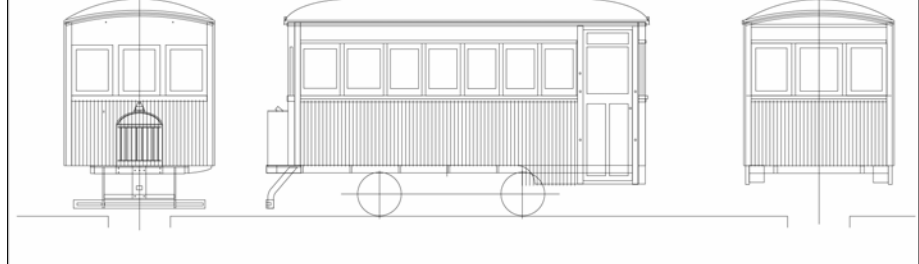
## ジ1タイプ



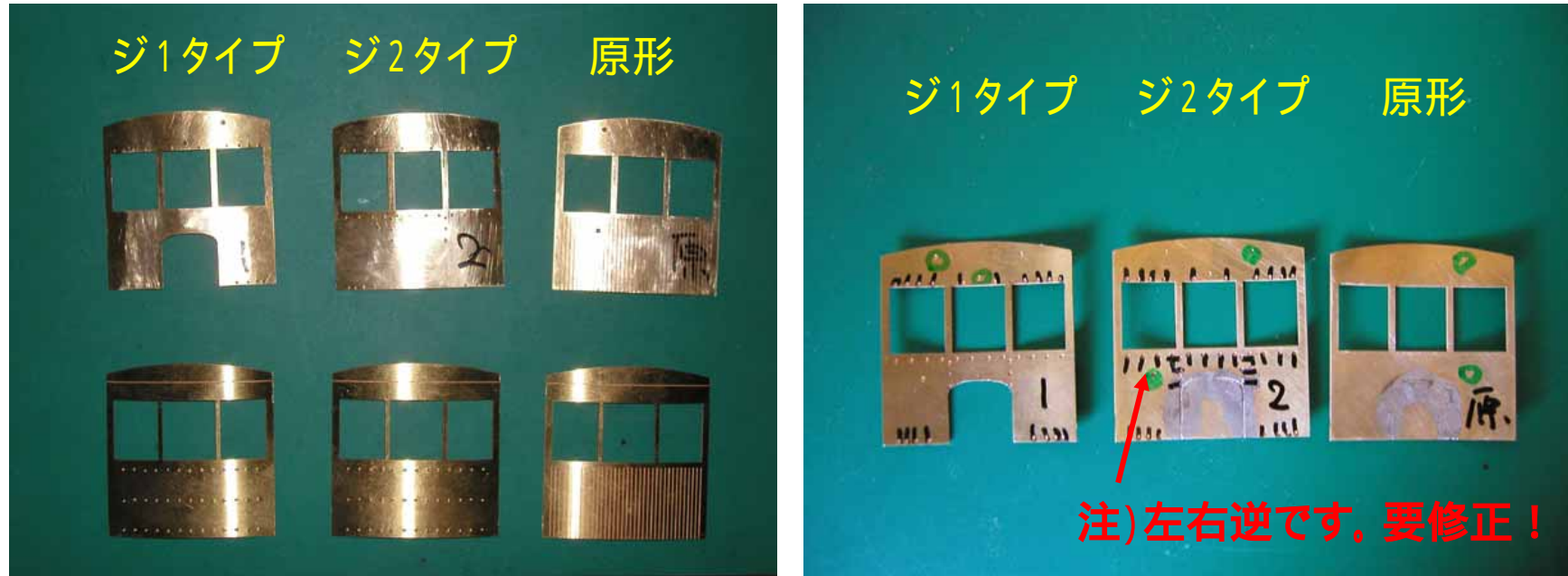
## ジ2タイプ



## 原形



# 妻板の組み立てー



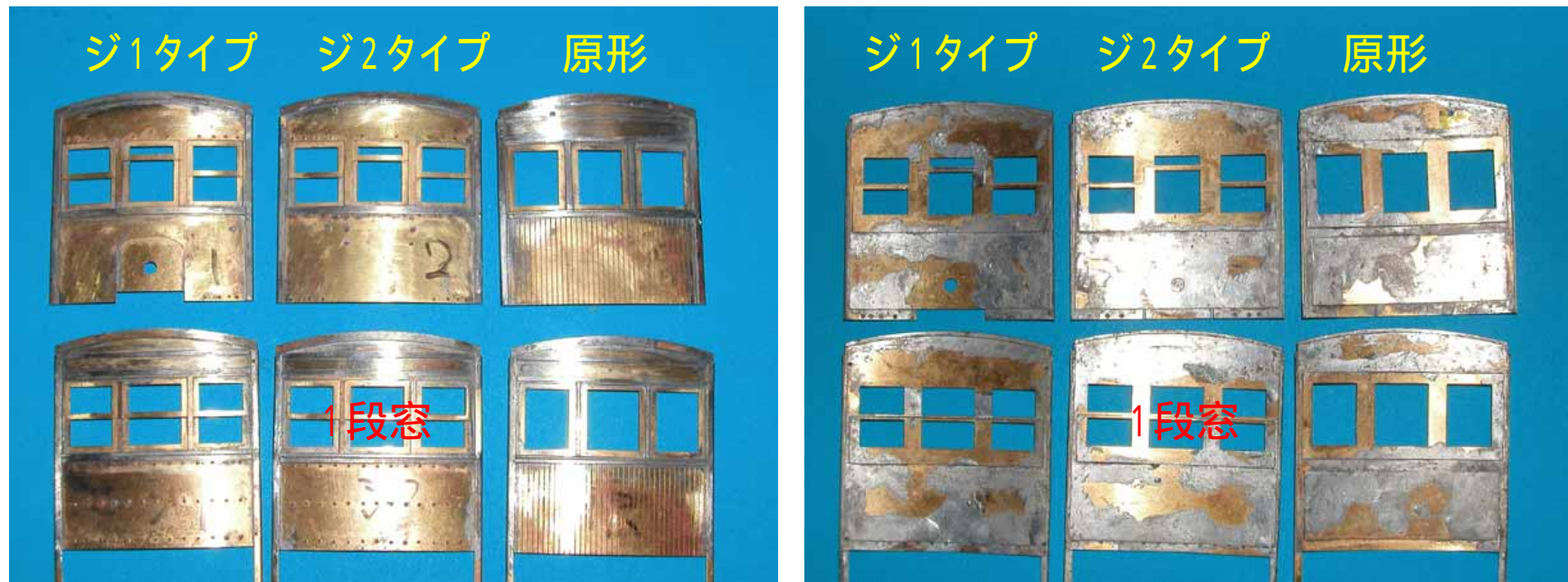
妻板外板を床板のカーブに沿って曲げます。写真は左から順にジ1、ジ2、原形になっています。

鋼板張りにはリベットがありますので、裏からけがき針で押し出して表現します。

右写真の黒で示した箇所はリベット位置、緑はタイフントヘッドライトの箇所です。中央のジ2には窓下にヘッドライト用の穴がありますが、これは左右逆です。妻板内板にも窓下ヘッドライト用のガイド穴がありますので、そちらを参考にして修正してください。

ロスト製のボンネットを付ける場合はエッチングのガイドに沿って切り抜き、大きさを現物あわせで調整してください。

# 妻板の組み立てー



妻板内板を付け、雨樋(下段)、妻板両脇の**1.5×1.5アングル**、各種帯板の順に付けます。雨樋は、上段(車体組み立て後に取り付け)は幅約1.5mmの薄いもの、下段は幅約1.5mmの厚いものを使いますが、上段は車体が箱になってから0.5mmずらして付けます。雨樋(下段)は上端を妻板上面より0.4mm上に付けます。取り付け後両脇を妻板幅に合わせてカットします。

両脇のアングルは、内側の角が側板端接するように付けます。アングル下端は前部では妻板に合わせてカットしますが、後部の下端は5mm以上残しておきます。また、ジ1後部妻板では樋縦管取り付け用の穴を、裏から開けておきます。

**使用した帯板**は以下の通りです。位置は6ページも参考にしてください。

ジ1、2

原形

正面窓下 **1.5×0.4**

正面窓上 **0.8×0.2**

後部窓上(2本) **1.0×0.2**

窓下 **0.6真鍮線**の下に**1.2×0.4**

後部窓下**0.8×0.4**

後部窓上(2本) **1.0×0.2**

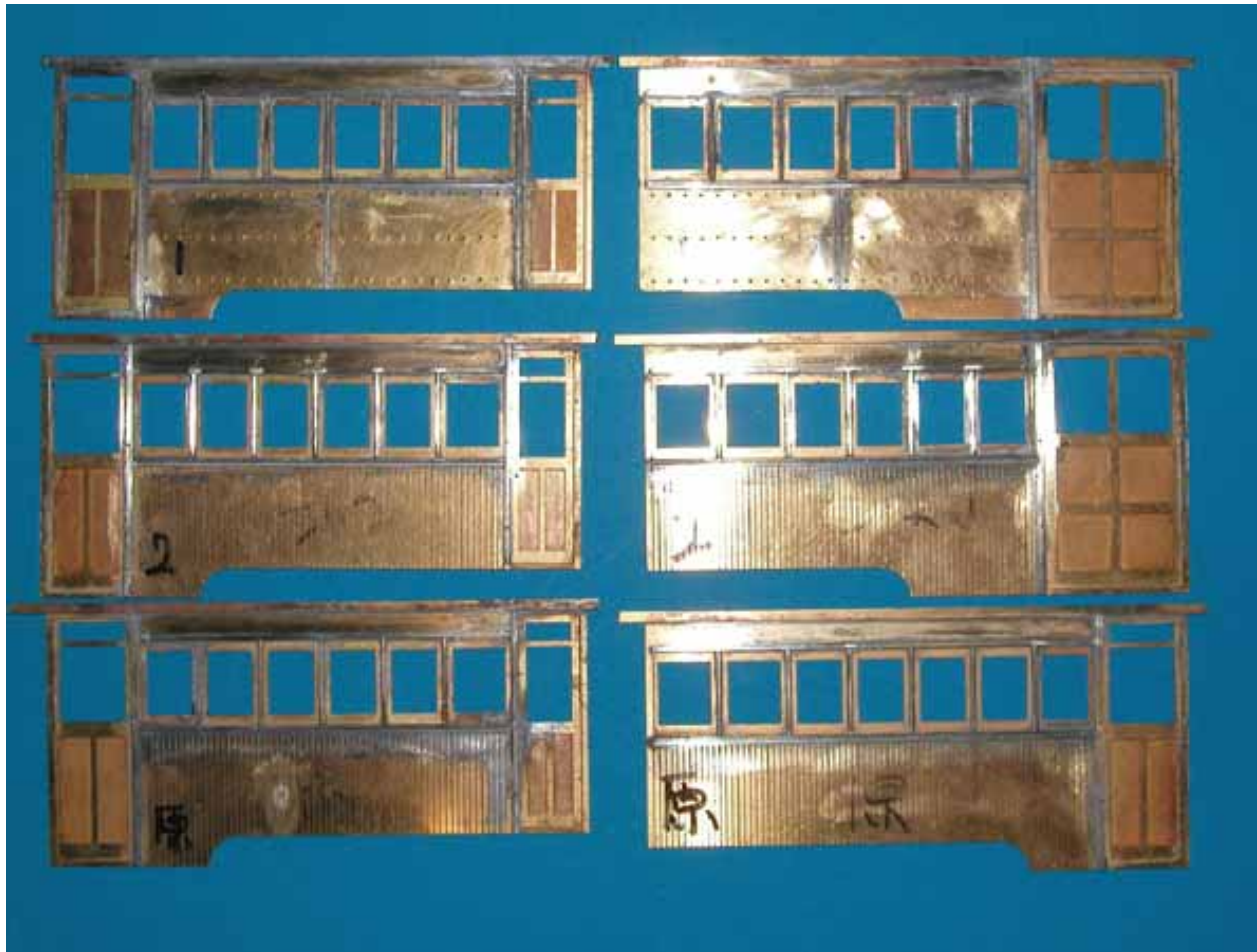
**1.2×0.2**

ジ1の前後とジ2前部は2段窓になっています。ジ2後部は1段だったようです。

原形は1段窓だったようです。1段窓では、腰板部に適当な真鍮板を裏当てします。サイズは2段窓の内板を参考にして下さい。



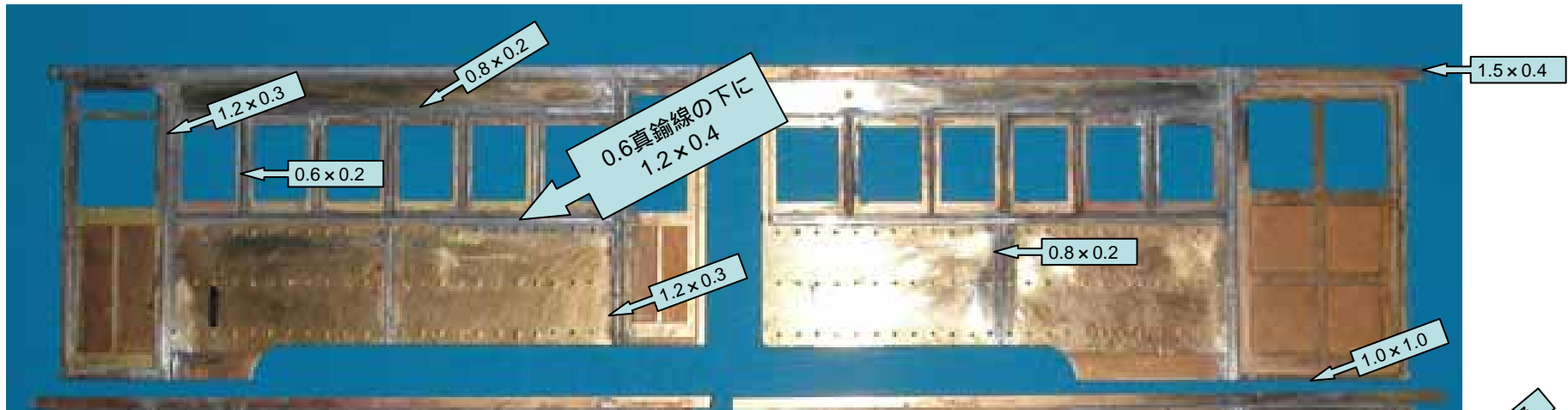
# 側板の組み立てー



雨樋 1.5×0.4  
ドア脇 1.2×0.3  
窓上 0.8×0.2  
窓下 0.6真鍮線の下に1.2×0.4  
窓間 0.6×0.2  
ジ1腰板縦の補強 0.8×0.2

側板内板を付け、雨樋、帯板等を付けます。使用した帯板は右の通りです。位置は6ページも参考にしてください。雨樋は両側を出っ張らせておきます。裏から手すり用の穴を開けておきます。ジ1と2では長さが異なります。(ジ2の方が上端が高い位置にある)

# 帯板等使用位置

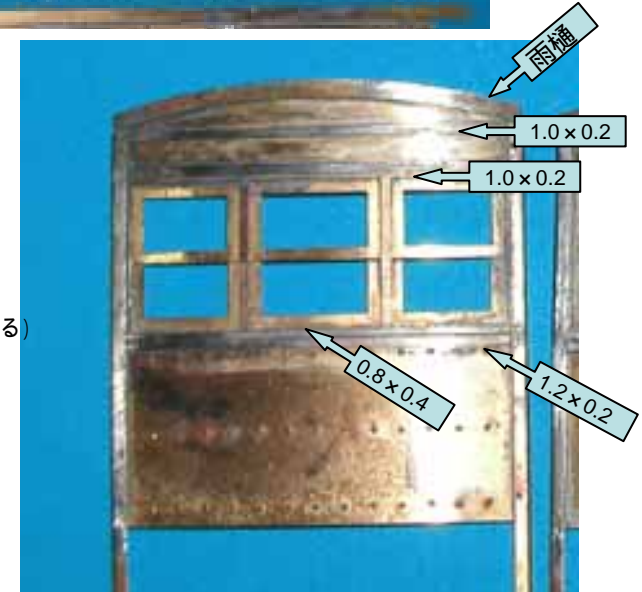
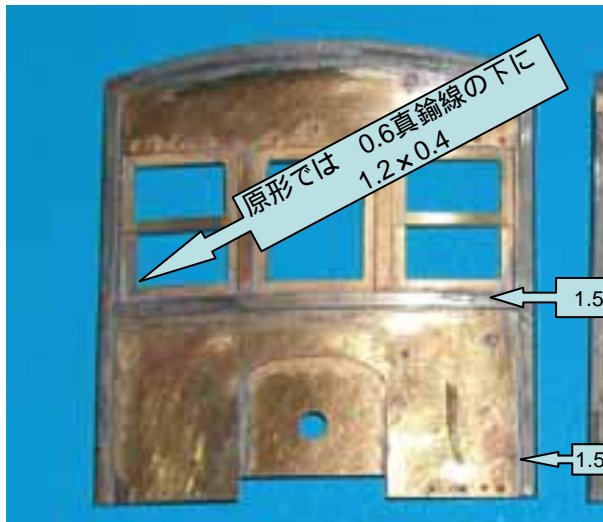


## ジ1、2側板

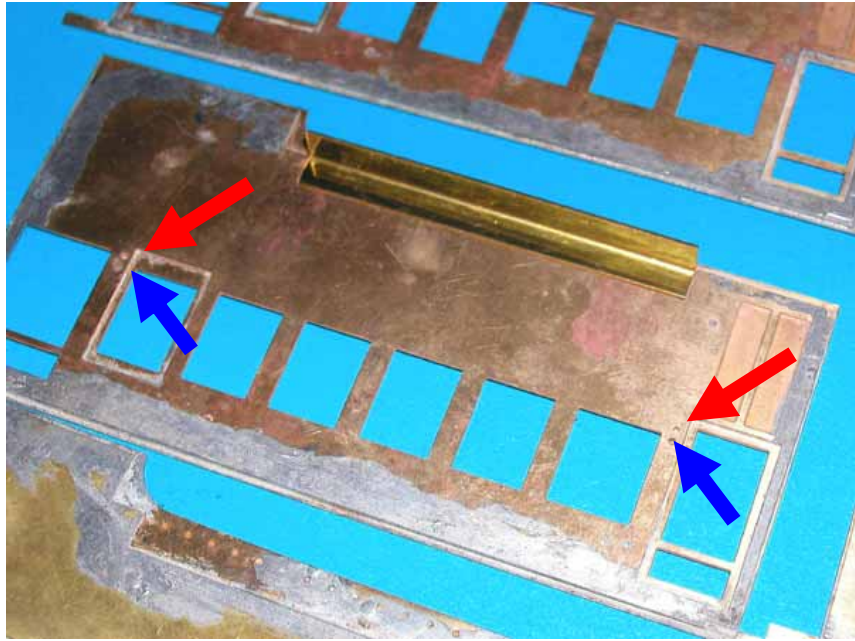
- 雨樋 **1.5x0.2**
- ドア脇 **1.2x0.3**
- 窓上 **0.8x0.2**
- 窓下 **0.6真鍮線の下に 1.2x0.4**
- 窓間 **0.6x0.2**
- ジ1腰板縦の補強 **0.8x0.2**
- ドア下のステップ **1x1** (車体を箱にしてから付ける)

## ジ1、2妻板

- 両脇 **1.5x1.5**アングル
- 正面窓下 **1.5x0.4**
- 後部窓上(2本) **1.0x0.2**
- 後部窓下 **0.8x0.4**  
**1.2x0.2**



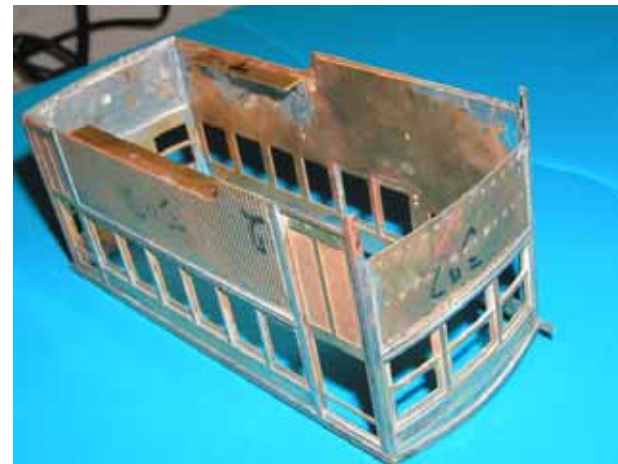
# 側板の組み立てー



側板裏に**5×4のアンゲル**を付けます。付ける前にアンゲルか直角か確認してください。時々不良品があります。側板の裏から手すり用の穴を開けておきます。ジ1と2では長さが異なります。(ジ2の方が上端が高い位置にある。青の矢印がジ2、赤がジ1の位置。)

妻板を組み合わせます。半田付けする前に、客ドア後部の手すり用穴(ジ1では乗務員ドア脇の雨樋縦管の穴も)を妻板脇の**1.5×1.5mmアンゲル**に開けておいてください。車体を組み立ててしまうと位置がわからなくなります。

箱にした後、後部妻板のアンゲルや側板の雨樋の出っ張りをカットします。





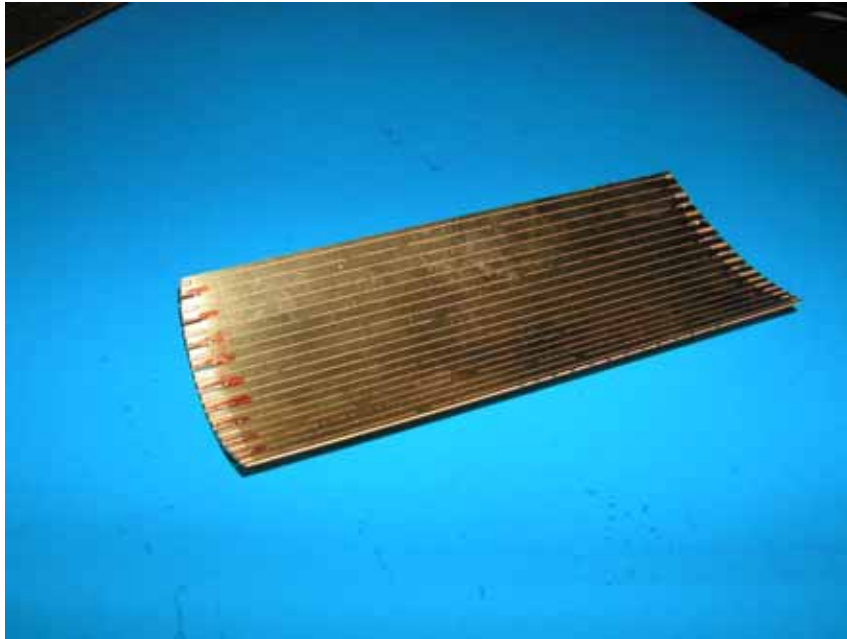
# 車体の組み立て



床板押さえの板を2枚重ね、車体に付けます。長くて横に突起があるのが前部用、短くて横に出っ張りが無い方が後部用です。高さはアングルに揃えます。  
前端上部用の補強材もありますが、取り付けない方が屋根を付けやすいので使いませんでした。



# 屋根の組み立て

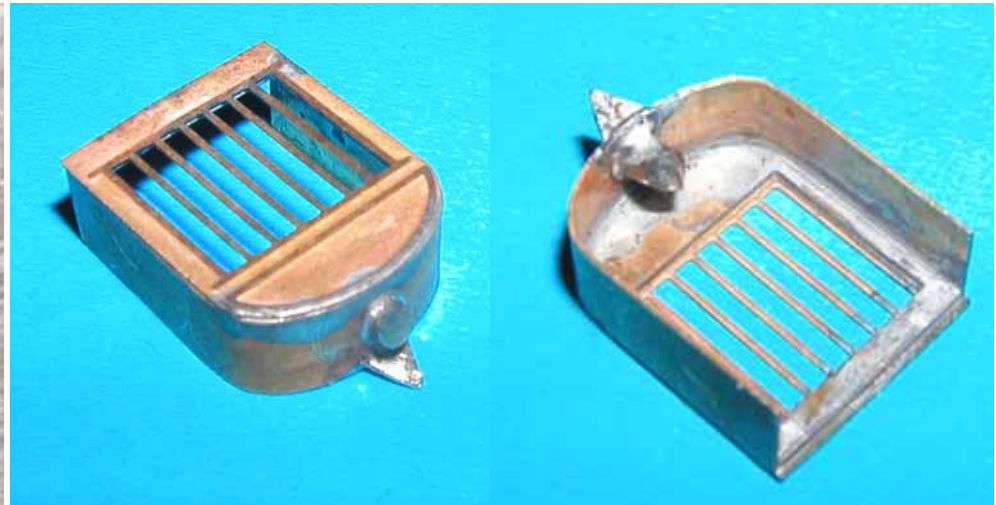


屋根を曲げます。R50mmで曲げます。作例では直径100mmの塩ビパイプをジグにしました。その後両端をたたき出してカーブを整えます。

# ボンネットの組み立て(ジ2)ー

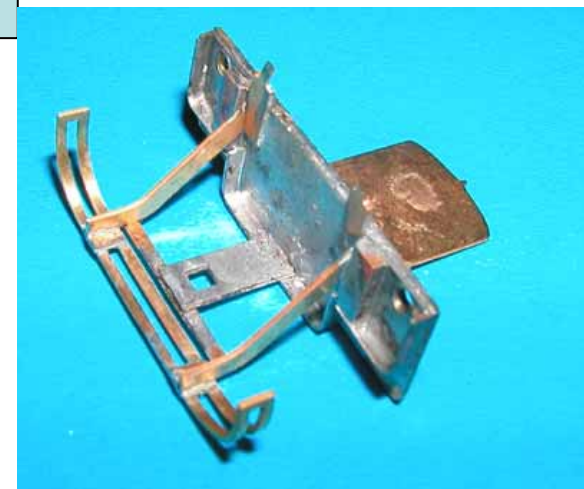
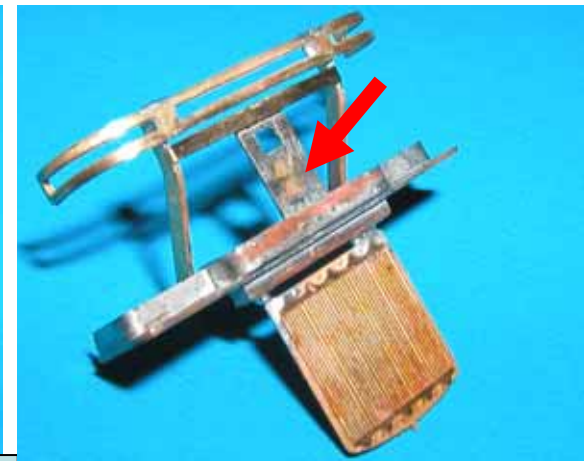
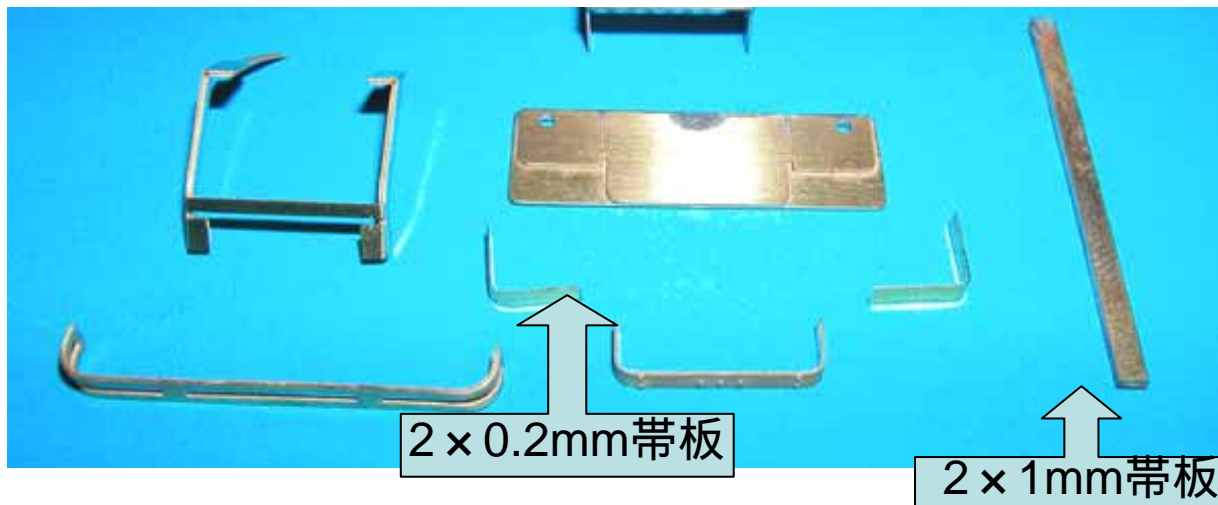


ボンネット前板は2枚重ねになります。  
内側はやや小さくなっていますので、このカーブに合わせ、  
側面をU字型に曲げます。



上面に給水口( **2mm真鍮線** )、上部の取り付け金具  
(三角の小片;エッチング部品)を付けます。

# ボンネットの組み立て(ジ2)ー



ボンネット部分の床板を作ります。

床板は2枚重ねで、前端を合わせます下板のカーブに合わせ、帯板を曲げます。両脇の**2 × 0.2mmの帯板**を使いますが、中央の帯板はエッチング板に含まれています。床板のエッチングの線が内側になるよう両脇に沿って**2 × 1の帯板(1 × 1でよい)**を付けます。

排障器ステー、連結器受け排障器ステー支え(左の写真には写っていません;右写真矢印の部品)を付けます。作例では床上に、**3 × 1**の平角線をボンネット内側幅の長さで付け、ラジエターをその上に付けました。



# ボンネットの組み立て(ジ1)ー

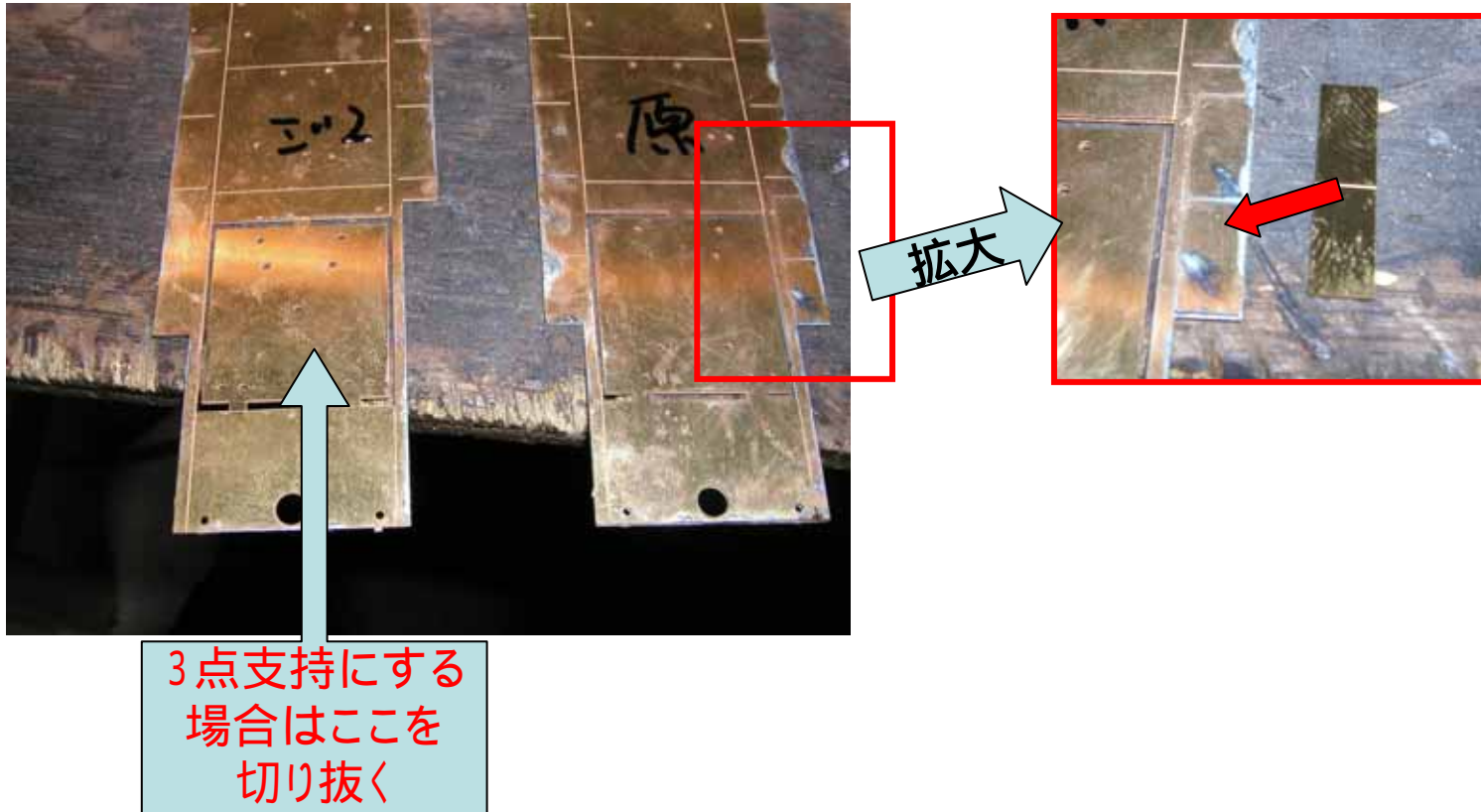


# ボンネットの組み立て(ジ1)ー



ジ1ボンネットはロスト部品を加工します。一回り小さい九十九里キハ104のものなので実車より小さめになっています。赤の部分を取り取り2×1mmの帯板を下辺に付け両脇にグリルを付けました。給水口は **1.2mm真鍮線**を使います。この上に正面のグリルを付けますが、複数ありますのでエッチングの状態のよいものを選んでください。両脇の突起を落とすだけでもよいと思いますし(その際は九十九里キハ104と同じ形態のグリルを付けます)、実物の形態に近づけるべくさらに加工を行った方もいます。( <http://homepage3.nifty.com/762mm/> )

# 床板の組み立てー

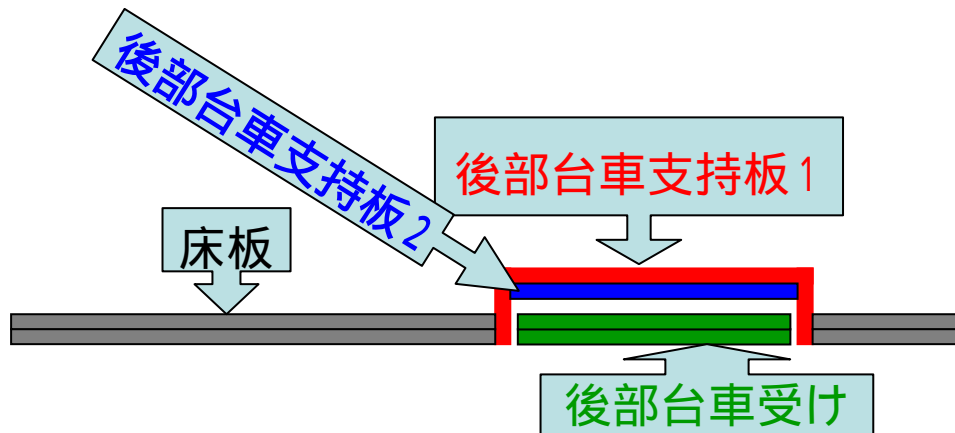
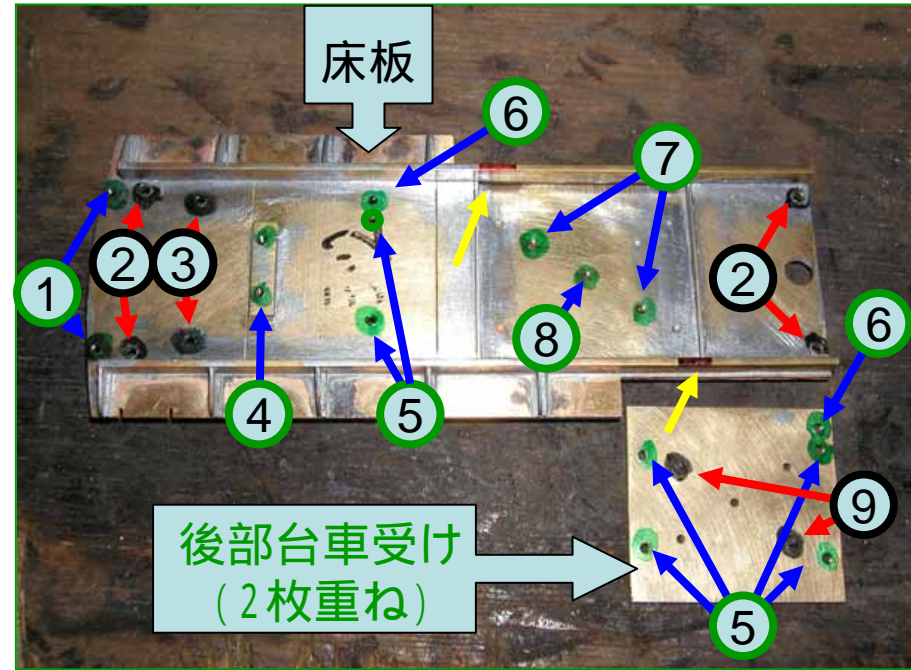
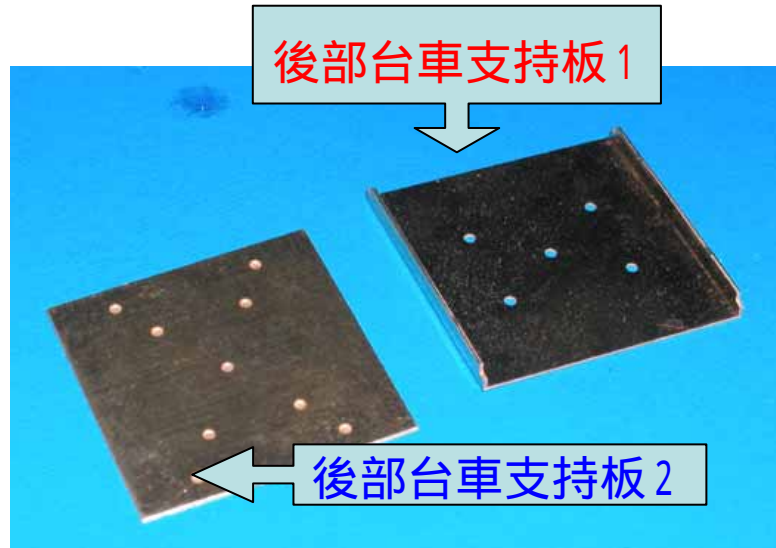


床板は2枚貼り合わせです。梁の位置が示してある方が下面になります。ジ1, 2では形が揃うように、原形でステップ欠き取りの大きさが同じになるように貼り合わせます。床板に段差が出来ますが、段差を埋めるための板を張り付けてください。

後輪を駆動しますが、線路の追従をよくするために3点支持にすることも考えてあります。その場合、後部軸受け付近の床板を切り抜きます。この機構が必要ない場合は床板をこのまま使用します。



# 床板の組み立てー



前後方向中心線上の床板断面図

図を参考に床板を組み立ててください。  
床下長手方向の梁は**3 x 1mm平角線**です。黄色の矢印の部分は軸受け基部の高さ1mmほど欠き取ってください。3点支持の遊びを作るためです。17ページ参照。

右上の写真で緑で示した穴には1.4mmネジ穴を黒で穴には指定の大きさの穴を開けます。各穴の意味は以下の通りです。

- 1. ボンネット床板固定用。
- 2. 車体固定用。1.4mm。(この穴をガイドに車体側にもネジ穴を開けます。)
- 3. 軸受け固定用(上からネジを差し込みます)1.4mm
- 4. モーター台固定用
- 5. 軸受け固定用
- 6. 集電ブラシ固定用
- 7. 後部台車受け固定用
- 8. 後部台車受け高さ調整用ネジ穴。上からネジを差し込みます。
- 9. 後部台車受け支え用2.0mm

# 下回りの組み立て



作例では以下の部品を使用しました。

- モーター 珊瑚 16S-5(800-1)
- 古典客車用軸受け珊瑚(508-1)
- F-IIギヤボックス フクシマ模型
- 10.5スポーク車輪1軸 フクシマ模型
- キドマイティ用モーター台とカバー (4513)
- 集電シューセット(4512)

キドマイティ用モーター台とカバーは、モーター台しか使いませんでした。アングル等で自作できると思います。集電シューセットも燐青銅板などから作る場合は不要です。



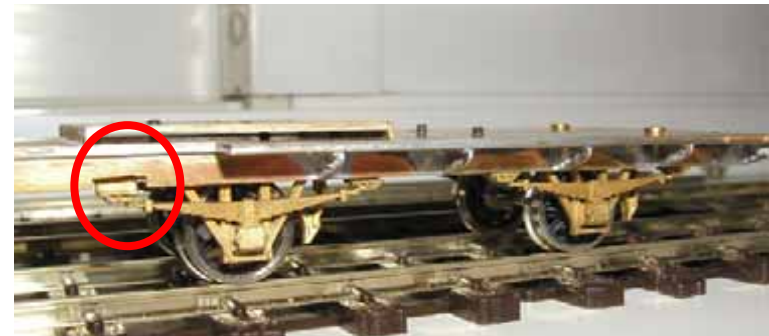
# 軸受けの取り付け



珊瑚古典客車用軸受けを上写真のように加工します。  
赤で塗りつぶした部分は切り取り、緑で示した穴には  
1.4mmネジ穴を黒で穴には1.4mm穴を開けます。

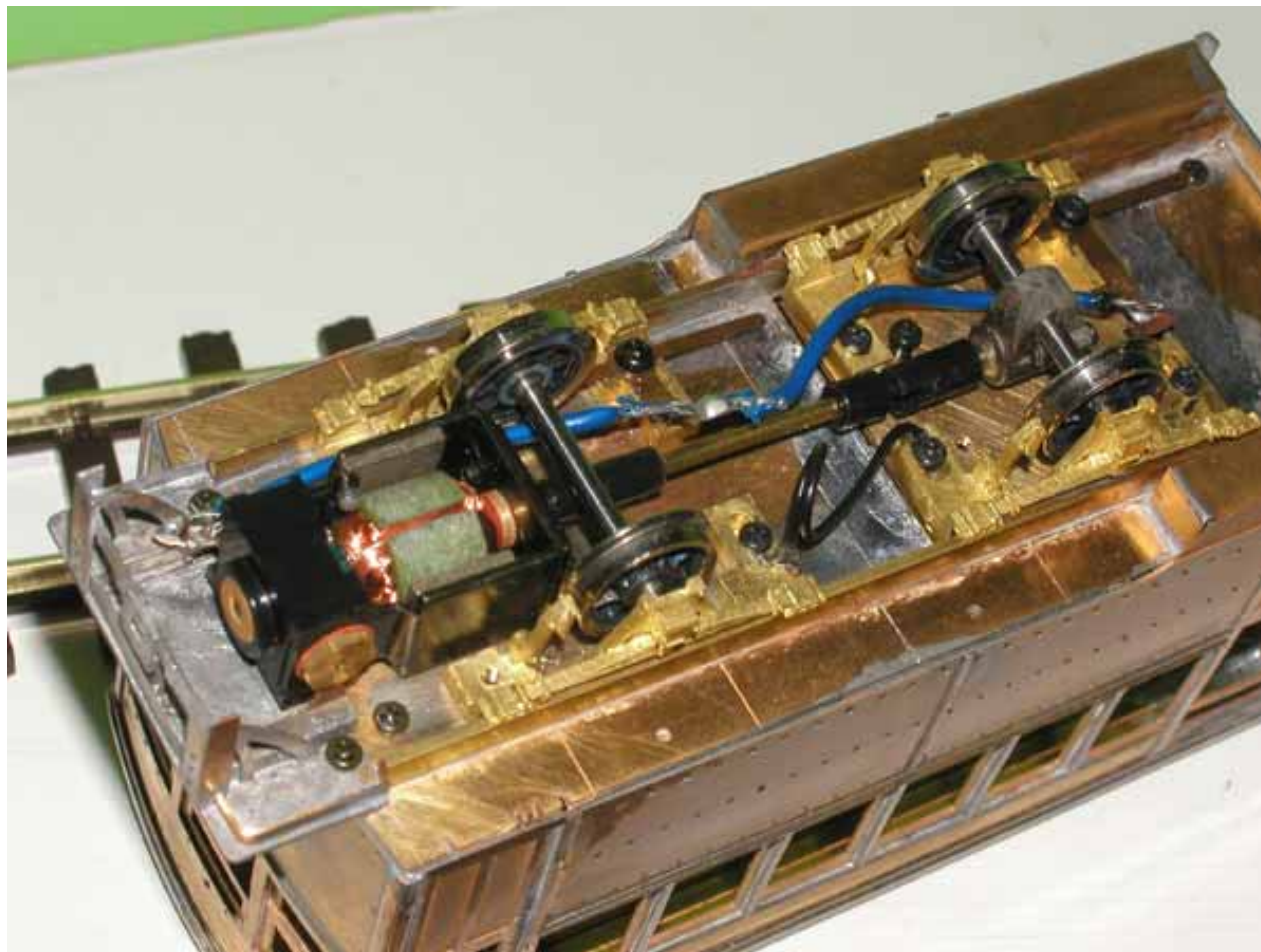
フクシマの車輪を付けます。

赤丸は3点支持の遊びを作るための軸受け基部の欠き取り



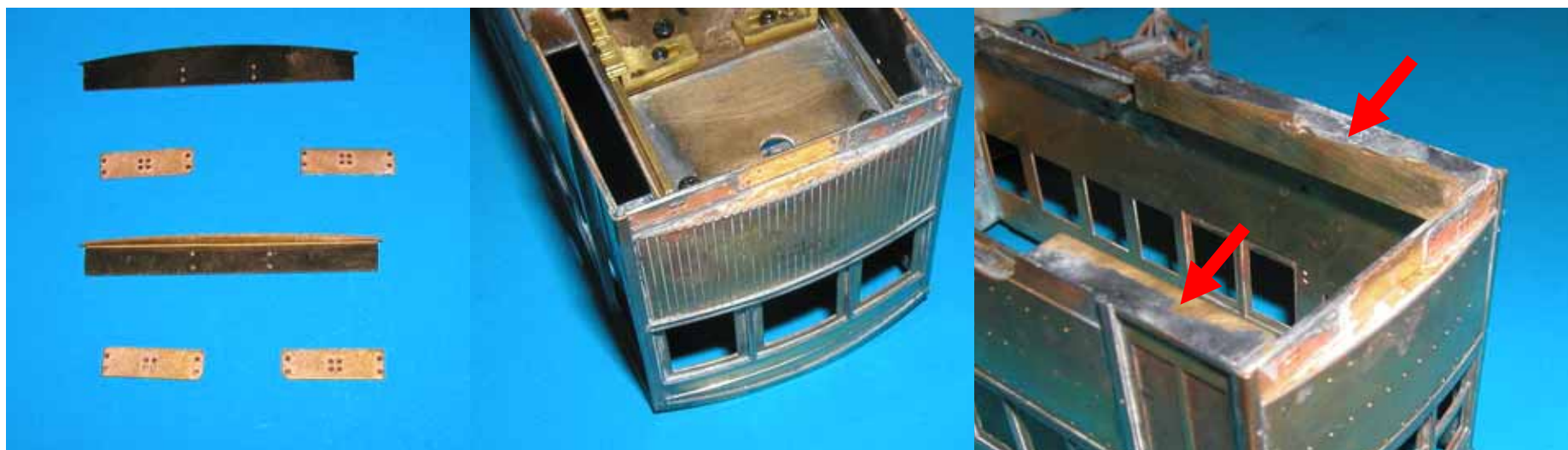


# モーター等の取り付け



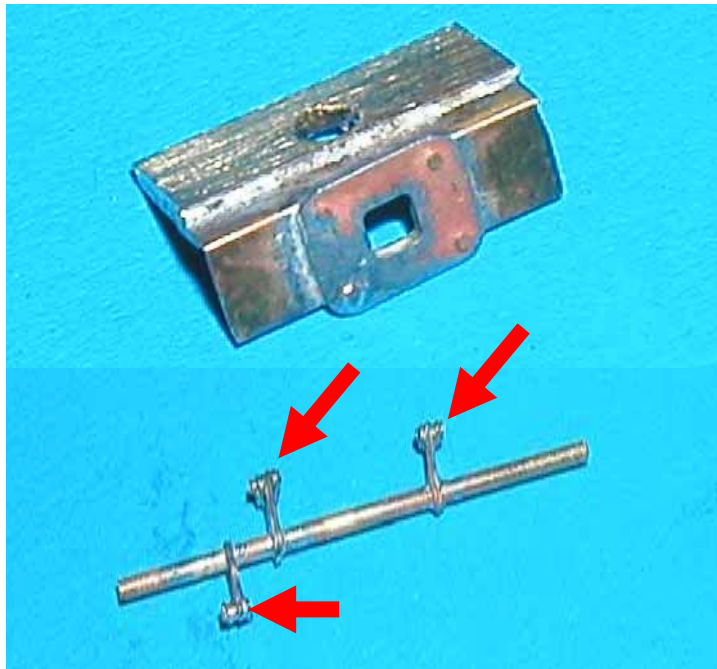
下回りの写真(車体は試作車のものなので多少違いがあります)

# 後部梁の製作



後部梁を作ります。本体を90°折り曲げますが、この部品のみエッチング線が外側になるよう折り曲げます。リベットを打ち出した後に本体のみを車体に付け、両脇の部品は車体幅にあわせて付けます。そのあと車体にステップ(矢印)を付けます。ステップは左右があります。短い方は気を付けてください。床板が嵌るよう調整し、ネジ用の穴を車体側に開けます。

# 連結器受けとブレーキてこ



連結器受けとブレーキてこを写真の通り組み立てます。ブレーキ引き棒を受ける小判形の部品(矢印)は完全な失敗で、前作の貨車の部品を使用しました。連結器受けの部品は上に真鍮小片を張り高さを調整しました。KSモデルの**カブラー台(高さ3mm)**を床板に付け、その上にネジ止めしました。



# 小物の取り付け

- 乗務員ドア下のハシゴ(1×0.4真鍮帯板)
  - 幅は床板の切り込みに合わせ、踏み板を付けます
- 手すり( 0.5真鍮線)
- ドア下ステップ(1×1真鍮角線)
- 連結器(珊瑚軽便用)
- 雨樋上段1.5×0.2
  - (雨樋下段より0.5mm上にずらして付ける)
- 雨樋縦管(割ピンと( 0.7真鍮線)を使って製作)
  - ジ1では側板最前部と後部妻板両脇につきます。
- ヘッドライトとタイフォン(エコーモデルなど)

わたしはここまでできていないので悪しからず。